

伊藤ひろし県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

災害時に活躍ヘリコプター

臨時離発着場、県内に495か所

県の防災施策を質問する伊藤寛県議



12月県議会一般質問

伊藤議員 災害対応におけるヘリコプター臨時離発着場適地についてかう。大分県大分市において発生した大規模な火災においては、上空からのヘリコプターによる消火活動も行われたが、火災に限らずヘリコプターは災害時に様々な場面での活動が期待される。

近年の災害対応においては、ヘリコプターによる救助・救援活動、さらには物資輸送や情報収集など、空からの支援は欠かすことのできないものとなっている。

さらに、災害時以外においても、急病患者の救急搬送など、日常的に緊急対応においてもヘリコプターは有効に活用されている。

これらの活動を支えるためには、しっかりと整備されたヘリポートなど、離発着のための場所が必要だが、常設のヘリポートを新たに整備することは、用地の確保や多額の経費負担といった課題があり、容易ではない。そこで、平時からヘリポート以外でヘリコプターが緊急時に離発着できる場所を

だれもが住み良いと思える習志野市のまちづくりに力を注いでいる伊藤寛県議（習志野市選出、2期）は12月定例県議会で登壇し、ヘリコプターの臨時離発着場や千葉県総合救急災害医療センターの水道管路耐震化、花見川第二終末処理場の停電対策など、主に災害時の備えについて県執行部に質問しました。災害時、ヘリコプターは救助・救援活動になくはなりません、伊藤議員は災害発生に備え、ヘリコプター臨時離発着場の適地洗い出しに努めてほしいと県に要望しました。

把握し、災害時に活用できるようにしておくことが重要になる。

候補地の拡充にあたっては、学校や公園に加え、大型商業施設の駐車場、物流拠点、運動場、公共施設の屋上など、民間施設も含めて幅広い検討が大切。災害時におけるヘリコプターの迅速な救援活動に向けて、県としてヘリコプター臨時離発着場適地を増やし、平時から候補地を把握しておくべきと考える。

そこでかうが、ヘリコプター臨時離発着場適地を増やすべきと思うがどうか。

知事 ヘリコプターは、災害時における負傷者の搬送や物資支援に大きな役割を担うことから、県ではヘリコプターが円滑に活動できるように、緊急時に着陸が可能となる臨時離発着場の適地について、毎年度、県内市町村に対してリスト化を依頼しており、その結果を消防、警察、自衛隊等の防災関係機関と共有しています。

伊藤ひろし県議プロフィール

- 略歴■
- 1975年 富山県に生まれる
 - 1994年 東海大学付属望洋高校卒業
 - 1998年 東海大学政治経済学部卒業
 - 2004年 松下政経塾の地域政経塾卒業
 - 2007年 習志野市議会議員当選(3期)
 - 2019年 千葉県議会議員当選(2期)
- 現職■
- 県議会 文教常任委員会委員長
- 資格■
- 中学・高校教員免許、防災士

駅などを含め、新たな適地の洗い出しに取り組んでいきたい。



災害時に威力を発揮するヘリコプター

●県政や習志野市のまちづくりに関するご相談はお気軽にどうぞ

伊藤ひろし 県議事務所

〒275-0021 習志野市袖ヶ浦2-4-1-102 TEL.047(454)8358

消防共同指令センター

伊藤議員 県内千葉市、松戸市にある消防共同指令センターを最重要給水施設に追加するべきと考えるかどうか。

企業局長 県営水道では、膨大な管路の更新や耐震化を進めていかなければなりません。財源やマンパワーは限られております。このため、災害時の被害やその後の断水などの影響も考慮したうえで、特に液状化により大きな被害が想定される沿岸埋立地域の管路や、災害時において人命にかかわる災害拠点病院などの最重要給水施設につながる管路を優先して耐震化を進めることとしたいと考えています。

万一の災害に備え

伊藤議員 消防共同指令センターは重要な施設と認識しているものの、最重要給水施設には位置付けておりません。

今後、沿岸埋立地域にある管路や最重要給水施設につながる管路の耐震化の進捗を踏まえながら、次に耐震化を優先すべき管路について検討を進めてまいります。

伊藤議員 消防共同指令センターについては、災害時も業務を続けなければならない大事な施設。是非、消防共同指令センターの最重要給水施設の追加について、検討を進め



県執行部に要望する伊藤議員

最重要給水施設に追加を

千葉市の中央消防署に所在する「ちば消防共同指令センター」については、最重要給水施設に位置付けられている県庁との距離が数十メートルと近い。県庁につながる管路と併せて耐震化を図るよう強く要望する。

また、松戸市の中央消防署に所在する「ちば北西部消防指令センター」は、最重要給水施設に位置付けられている松戸市役所から約1400メートルの距離にある。同じく柔軟に対応するよう要望する。

県道津田沼沿停車場線 速やかな事業進捗を

伊藤議員 県道津田沼沿停車場線における無電柱化の進捗状況はどうか。

県土整備部長 県では、災害の防止や安全・円滑な交通の確保などを図るため、県管理道路の無電柱化を進めており、県道津田沼沿停車場線では、延長0.6キロメートルの区間で電線共同溝の整備による無電柱化を実施しています。昨年度までに当該区間の設計が完了し、今年度は、道路占用事業者において、電線共同溝の整備に支障となるガス管の移設工事に着手する予定です。引き続き、道路占用事業者や地元関係者と連携しながら、無電柱化事業を進めてまいります。

総合救急災害医療センター

水道管路の耐震化急げ

伊藤議員 現在、県営水道では、令和3年度～12年度末の10年間を計画期間に、災害拠点病院や防災拠点など、企業局が位置付けた最重要給水施設として、県営水道給水区域内の69施設につながる管路を指定して優先的に耐震化の整備を進めていると聞いている。

その「最重要給水施設」の一つである千葉県総合救急災害医療センターは、災害拠点病院の中でも県は「機関災害拠点病院」に指定している。大規模災害の発生時には、被災者の受け入れに加え、全国から派遣される医療チームの受け入れ、消防・警察と連携・調整を担う、まさに災害医療の司令塔ともいえる存在。

従って、このセンターにつながる管路の耐震化については、他の施設以上に優先度を高め、早急かつ計画的に整備を進める必要があると思う。そこだろうかと思うが、上水道の管路の耐震化について千葉県総合救急災害医療センターにつながる管路の耐震化の取組状況はどうか。

企業局長 県営水道では、災害拠点病院や防災拠点などの最重要給水施設につながる管路について、12年度末までに耐震化率を100%とすることを目標に、令和3年度以降、優先して耐震化を進めているところです。その結果、耐震化率は令和2年度末の29.8%から、令和6年度末では、63.3%と、33.5ポイント増加しているところです。

花見川第二終末処理場 72時間自家発電体制へ

伊藤議員 花見川第二終末処理場における停電対策について、進捗状況はどうか。

知事 本県の流域下水道は、約330万人の生活を支える重要なインフラであることを図るなど、柔軟に対応するよう要望する。

さらに、松戸市の中央消防署に所在する「ちば北西部消防指令センター」は、最重要給水施設に位置付けられている松戸市役所から約1400メートルの距離にある。同じく柔軟に対応するよう要望する。

近年、自然災害が激化、頻発しており、停電対策の重要性が年々高まっていることから、国のマニュアルに基づき、災害などにより電力の供給が長時間途絶えた場合であっても、処理場の機能を72時間保持できるように、自家発電設備にかかるとる燃料タンクの増設などを進めているところです。

花見川第二終末処理場では、今年度、停電時の稼働時間を延ばすために必要な燃料タンクの増設容量や設置場所などを決定したところであり、引き続き、停電対策を進めてまいります。

伊藤議員 大規模な地震が発生した際にはあらゆるところで道路が寸断され、燃料を運搬する車両が処理場に到着できない恐れもある。

だからこそ、長時間にわたる停電に備えて、処理場の機能を72時間保持できる非常用自家発電の体制整備を一刻も早く完了するよう要望する。

千葉県総合救急災害医療センターにつながる管路につきましては、令和3年度から着手しており、未耐震区間があと80キロメートルまであります。今後、出来るだけ早期に完了するよう設計等に着手してまいります。